

緊急連続インタビュー

私が消費増税に反対した理由

消費増税には反対です。私は精神医療の被害者で、精神医療サバイバーといふ肩書で相談活動しています。

厚労省の「社会保障審議

4

会生活困難者の生活支援の在り方」という会合に出席したり、自分が相談者などと会話したりして感じるのは、低所得者は皆、生活費を切り詰めて暮らしているという点です。

年収200万円ほどの私が今、着ている服は消費税込みで1050円です。仮に消費税率が1%上がれば10円値上がる。これはもの

すごい負担です。低所得者の中には、新聞も取れない生活保護以下の人も大勢いる。厚労省は生活保護制度を抑制する方向に私以外に低所得者はいたにありませんが、この状況で消費増税率が上がれば大変なことになると思います。



広田和子
(精神医療サバイバー)

しかし、こういう低所得者の実情を国会議員もマズい。今回の会合で、私は思われる人を呼ぶべきなのに、

わす「私が呼ばれたのはアリバイ作りですか？」と質問しました。国の施策は改

「点検会合に低所得者はいませんでした」

直撃を受ける「弱者」の意見を聞かないのか

めて「当事者不在」で決まるとののだと実感しました。そもそも考えてほしいのは、増税する、しない、を論議している場合なのかということ。大震災の影響で福島県の方々は今も厳しい生活を強いられています。増税うんぬんの前に政府・国民が一丸となって、この国難を乗り切ること、福島の復興が最優先されるべきではないでしょうか。マスコミ報道も「増税ありき」のようで疑問を感じています。会合に出席して

いた日本新聞協会の会長も増税そのものには強く反対しませんでした。新聞協会には軽減税率導入を求めているのに不思議な話ですね。

今の日本は家庭や地域、社会で愛が感じられなくなりました。だから、独居者人宅の見回りを行政に任せるといった、本来は地域住民が声を掛け合えばお金がかからないようなことでも税金に頼るような事態になるのです。あらためて、国も地方自治体も、すべての施策をひとつひとつ見直し、社会全体が再び愛を持つようになれば、消費増税をいなくても十分やっていけると思います。